

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500076		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム桃寿園		
所在地	奈良県橿原市北越智町345		
自己評価作成日	平成28年10月13日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2970500076-00&PrefCd=29&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成28年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」とモットーとし、御利用者の自主性を重んじながら、支援を行っています。御利用者同士の関係性を配慮し、席の配置や外出の際のメンバー選定に関しても、孤立しないようまた、皆様が快く過ごせるように行っています。また、当事業所は、周辺が自然に囲まれており、四季の移ろいを感じる事が出来ます。食事に関しては、四季折々の食材を選び、風景だけでなく、食事でも四季を感じて頂く様配慮しています。地域の行事にも、積極的に参加し、地域住民・ボランティアの方々と交流を図っています。また、併設している特別養護老人ホーム・診療所との連携を密にし、様々な行事への参加や医療面のフォローを可能にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の敷地にある特別養護老人ホーム、デイサービスが入る鉄筋コンクリートの建物の2階にグループホームが併設されている。法人内の連携もよく、地域との交流、ボランティアの訪問観賞、職員研修、医療面、重度化後のケア等母体のバックアップ機能を十分活用され利用者が、安心して暮らせるよう配慮している。食事は大切と考え利用者に行く買い出しでは食材を吟味し、利用者も手伝う料理は、手作りに拘り一緒に鍋料理を囲むこともある。利用者は、自立度の高い方も多く、法人の施設長や管理者も職員に声がけし職員は、「家」での暮らしを目標に理念である「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を実践しているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は、「ゆったり」「いっしょに」「たのしく」を理念とし、ご自身のペースで自宅で生活しているような環境作りを意識しながら職員各々実施しています。	「ゆったり・いっしょに・たのしく」と解りやすいグループホームの理念を掲げ、職員は全員で「我が家」を目指し、ゆったりと利用者のペースに合わせたケアを心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域老人会のカラオケに参加したり、地域の幼稚園・小学校・高校の運動会や文化祭に参加しています。	同じ建物内の特別養護老人ホームには多くのボランティアの訪問があり、夏祭りには地域の方を招き利用者も一緒に楽しんでいる。グループホームには、毎月のように近隣の檀原高校の生徒が訪問し高校の文化祭にも招かれ発表や模擬店を楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、併設の居宅事業所がランチ事業として、月に1度講習会などを開催しており、その際に当事業所の事例などを参考にされています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議でグループの実状などを、紹介し、構成員の皆様とどのようにしたら、よりよいサービスが実施できるかなどを、話し合っています。	運営推進会議は、2か月に1回、家族、自治会長、民生委員、市相談委員、ボランティア代表の参加を得て開催している。会議では事業の現状報告を行い、認知症の問題行動や感染症予防を取り上げ話し合っている。	更なる取り組みとして運営推進会議で外部評価結果表を参加者と家族に配布し、事業所の取り組みや評価を詳しく知って頂き、課題改善のための目標達成計画についてモニターになってもらうなどサービス向上につなげることを期待する。さらに、自己評価を職員全員で取り組んだり、運営推進会議に参加されない家族にも評価結果を知らせることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員派遣事業を受け入れており、毎月訪問して頂き、その都度貴重な意見を聞き、サービス向上に努めております。	市委託の介護相談員が毎月訪問し利用者の話を聴き事業所へ伝え話し合っている。市の介護教室やランチ事業に協力し講師派遣も行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し、事例検討し、拘束の理解を深め支援しています。	身体拘束はしないと契約書に謳い法人の身体拘束廃止委員会に参加し共有している。玄関が2階部分で急な階段に面しており門扉は閉めているが利用者が外に出たいときは、職員と一緒に出掛けている。家族の要望で夜間見守りのためベッドにセンサーマットを敷いている利用者がいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、園内勉強会を実施し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見制度を利用されている方が居られ、その方の支援から学んでいました。今後も、継続して学んでいきたいと思いをします。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をかけ、丁寧に説明し、納得・理解して頂く様努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、ご家族様の面会時に意見などを頂戴し、また、市の相談員による外部からの意見を踏まえ運営に反映するよう努めています。	家族の意見や要望は、毎月の利用料精算にいられた時や居室訪問時に聴いている。利用者の意見や要望は、身近に接している職員が気軽に話してもらえよう声掛けしている。家族の要望から毛布を用意したり、本日の献立をリビングに張り出すなど運営に反映させている。運営推進会議に出席する家族も固定せずに入れ替え意見をもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員と話す機会を設け、提案などを聞き運営に反映しています。	職員は、申し送りノートに些細なことでも書き入れるようにし管理者との意見交換を図り全員で共有している。加湿器の購入希望や、割れた利用者の湯のみ茶碗の選定状況等が書かれている。職員の夜勤体制も要望を聴き入れ組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や日程の意見を毎月聞き、勤務表などに反映しています。また、職員同士の関係性も円滑にいこうつとめています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内勉強会を実施し、参加を促しスキルアップの手助けになるよう努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中々同業者との交流する時間を作る事が出来てないのが現状です。ネットワーク作りにも積極的に出来るよう勤めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に事細かに御利用者の生活状況を確認したり、実際に居住スペースを拝見したりしながら、サービスに反映できるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や、今までに苦労された事を親身に聞き、当園を利用する事により、安心して頂き、同じ情報を共有することにより、良好な関係を築けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと行い、その中から必要な事象について家族様と話し合い、御利用者・ご家族様とも納得頂くサービスの提供に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の細かな変化などを見逃さず、御利用者様が訴える前に築けるよう日頃から、観察しコミュニケーションをとり、安心して生活出来るよう支援しています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園外散策など、行事の際にともに参加して頂いたりと協力を得ながら家族様と一緒に支援を行っています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などを積極的に受け入れ、友人の方にも面会して頂く様家族様にも促しています。	友人の訪問を受けたり、家族と外食に出掛ける方もある。職員と一緒に馴染みのお店に食材の買い出しに行ったり、ドライブの途中で自宅近辺を通ったりもする。家族から電話が入ったときは、利用者にも電話に出て話してもらうように進めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、席の配慮をしたり、会話がスムーズに行くよう職員が間に入ったりと、それぞれの人間関係を把握し対応しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も継続して相談支援を行い、気軽に相談できるよう常に窓口を開いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いを汲み取り、要望などがあれば、買い物や行事などに反映しています。また、日頃の支援には、家族様に連絡しカンファレンスを行い、最善の方法を検討しています。	利用者の思いや意向利用開始時に家族や利用者から聴くように努め、日ごろのコミュニケーションを大切にして利用者の思いを汲み取るように努力している。「お寿司が食べたい」と要望されたことを伝え家族と一緒に外食に出掛けたこともある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基本に、希望に沿った支援を実施する為に、家族様や御利用者様から、情報を得ています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察・記録し、少しの変化にも敏感に感じ安心・安全に生活して頂くよう支援しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、カンファレンスを開き、より良いケアが出来るよう職員同士話し合い、チームケアとして支援できるよう情報共有を行い、介護計画の作成を行っています。	職員の意見を集め6ヵ月ごとに計画を見直し、管理者が中心になって介護計画を作成している。家族の希望の中で一番多い「健康で転倒をさせないでほしい」との思いを受け止めチームケアに努めている。	アセスメントは初回のみでADL中心となっている。健康に過ごせる介護計画は大切であるが、アセスメントに日常生活から把握した情報を書き加え、利用者の思いを膨らませ日々の楽しみが増える、また笑顔が増える介護計画となるよう期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌を通じ、職員間で情報の共有を図り、口頭での伝達や意見交換を行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、他事業者や、地域の協力で連携し対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をさらに発掘できるよう、地域の方達にも意見を聞き、活用出来るよう努めていきます。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当園を利用される前より、利用されていたかかりつけ医を第一優先とし、家族様・御利用者にも、了解得て連携を図っています。	内科の受診は入居時に了解を得て、週に1度隣接の特養に出向き診察を受けている。歯科医の往診は希望者のみ行っている。人工透析を受けている利用者は、家族の意向で介護タクシーを利用してかかりつけ医に通院されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や健康状態をかかりつけ医・看護職に報告し、適切な医療支援が出来るよう連携を図っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と密に連携を図り、良好な関係性を築くよう日頃から、医療の相談などを行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養では看取りをおこなっているが、現在グループホームでは事例がない状況です。今後は、看取りの希望も聞かれる可能性があるため、今後の課題として検討します。	看取りの指針は、作成しているが、重度化した場合は、隣接の特別養護老人ホームや介護療養型医療施設への入所に対応しており現在まで看取りの事例はない。入居開始と同時に特別養護老人ホームへの入居申し込みも行い、法人内で看取りができる体制づくりをしている。	指針を作成し体制を整える準備段階であり今後、家族からの要望も想定し職員の看取りのケアに関する研修をされることが望まれる。医療連携や夜勤と受け入れ体制作りの課題も多いが、支援できる体制作りに向けた取り組みを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、目の届く所に設置し意識付けを行ってきたことにより、職員全体に対応が行き渡っています。今後は、新人職員も同様に対応できるよう指導していきます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練・防火訓練を実施しています。また消防や行政の指導に従い、防災に努めています。	スプリンクラー、緊急通報装置等を完備し、併設の特別養護老人ホーム、デイサービスと一緒に年4回の訓練を実施している。法人の防火管理者が計画を立て、利用者も参加しての訓練や夜間対応の避難訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分配慮をし、個々によって言葉かけをかえたり、また友達感覚には決してならないよう配慮しています。	利用者一人ひとりを尊敬しながらも、堅苦しくない言葉かけを心掛けている。入浴時は、希望に添えるよう同性介助を行い、トイレ誘導もさりげなく行っている。数年前にあった家族からの言葉使いに対する要望を掲示し、職員は注意しながら介助に当たっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を常日頃から、会話の中などから汲み取り、尊重するよう心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時やレクリエーション時などに、したい事や食事なら食べたいものを聞いたり、状態に応じて本人のペースに合わせて臨機応変にスケジュールを変更したりしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時や、面会時に、自宅で生活していた時に使用していた物や服などを持ち込んでいただき、本人や家族にも相談しながら着衣を選んで頂いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好き嫌いを把握し、食べられない物に関して個別で対応しています。また、食事の準備や片付けを共に行い、一緒に食卓を囲んでいます。	食事のメニューは、職員が交代で立て利用者と同じに出向き、利用者は進んで食事の準備や片付けをしている。手作りの料理を職員も利用者と一緒に食し、和やかな雰囲気の食事タイムである。お節料理も利用者と一緒に作り、誕生日には、リクエストに応じた料理をいただいている。今年は、梅干し作りにも挑戦した。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を観察し、不足している方は記録を継続して行い、必要量の摂取を支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後それぞれの状態に応じて、ケアを行っています。希望される方には週に1度、歯科医による口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録しその後検証を行い、個別に状態に応じた対応を行い、自立できるように支援しています。	自立度の高い利用者が多く個々の排泄状況を記録し、オムツ対応にならないよう意識して声がけしている。昼間は、おむつ対応の方はなく、夜間もパットやリハビリパンツ着用でトイレ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数は決めています、本人の希望にそって時間や日にちを設定し対応しています。	日曜日以外の週3回を基本に午後入浴しているが、お風呂好きな方は、週4回入ることもある。入浴を嫌がる方には、タイミングを計り声かけを工夫している。お風呂を楽しめるようにゆず湯をしたり、お気に入りのシャンプーを使ったり、ゆっくり時間を取って職員主導ではなくお好きに身体を洗い入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝時間が違い、本人のペースに合わせて就寝して頂き、安眠できるよう環境を整えています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を理解し、薬の変更や追加の際にはその都度用法・副作用について申し送っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にあわせたレクリエーションや趣味を生かした行事などを行い、対応しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足などの行事の際には、家族様などにも協力得て外出支援を行っています。また、併設の特養の方達とともに、ドライブに出かけたりしています。	紅葉ドライブやお弁当を持っての馬見公園への遠足に全員で出掛けている。希望者は、地域の文化祭や展示会へ出掛けたり、家族との外食を楽しんでいる。前回の評価後目標達成計画に挙げた日々の外出を増やす目標を、散歩やベランダでの日光浴の回数を増やすことで目標に近づけた。利用者一人ひとりの外出状態が一目で分かる様式があれば直良いと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて金銭管理している事を伝え、嗜好品などの希望のものを購入出来るように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話をかけて頂いたり、手紙のやり取りができるように職員により支援をおこなっています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の装飾を飾ったり、不快を感じないよう御利用者に聞き取りをしたりと、配慮しています。食事には、外が眺めれるようカーテンを開けたりと配慮しています。	高台にあるホームで食堂には明るい日差しが入り、窓からは四季折々の景色が感じられ、隣接の高校のグラウンドに学生の姿が見える。リビングにはテレビやソファが置かれ食後利用者は、くつろぎ談笑されている。床は、業者によるワックスがけが行われたところできれいに光っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でも、気の合う方への席の配慮や外が眺めれる所にソファを設置するなどして配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の面接の段階で、本人の居住スペースを見せていただき、なるべく居住スペースに近い居室が出来るよう本人・家族様と相談しながら居室作りを工夫しています。	利用者の希望を聞き4室には、畳が敷かれている。ベッドや家具も使い慣れたものを持ち込み整理整頓された居心地の良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂・トイレ・居室の場所を理解出来るように装飾を飾ったりし、自立した生活が送れるように工夫しています。		